

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	相愛大学
設置者名	学校法人相愛学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
音楽学部	音楽学科	夜・通信	20	0	30	50	13	
人文学部	人文学科	夜・通信	20	0	112	132	13	
人間発達学部	子ども発達学科	夜・通信	20	0	88	108	13	
	発達栄養学科	夜・通信	20		89	109	13	
(備考) ・特定の学生のみ履修できる授業科目は計上せず。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> ● 一覧表は、以下のアドレス https://www.soai.ac.jp/univ/match/information.html ● シラバスから一覧を検索する場合は、以下のアドレス http://portal.soai.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp <p>◇検索方法は、以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ゲストユーザー」をクリック ②「シラバス照会」をクリック ③「キーワード」の項目に、「実務経験」と入力し「検索」をクリック <p>※特定の学生のみ履修できる授業科目も表示されるので注意。</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	相愛大学
設置者名	学校法人相愛学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.soai.jp/zaimu/index.html> にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	宗教法人役員	2021/3/30～ 2024/3/29	建学の精神の具現 化に関する助言
非常勤	公立大学法人 元理事長・学長	2020/3/30～ 2023/3/29	学校経営に関する 助言
(備考) 学外理事の総数は7名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	相愛大学
設置者名	学校法人相愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの作成に当たっては、『シラバス記載についての留意事項』及び『補足事項』を各教員に配付し、記入内容の確認・充実に取り組んでいる。 ・シラバスには、授業概要・ポイント、到達目標、授業計画、授業方法、評価方法・基準、失格条件、予習・復習の準備学習などのアドバイス、目安となる学修時間など、課題に対するフィードバックの方法、教科書・参考文献、ディプロマポリシーとの連携、実務経験のある教員が担当する科目等を記載している。 ・各教員から提出されたシラバスが、シラバス記載の留意事項、補足事項に基づいて作成されているか、当該学部学科の教務委員等で記載内容を確認の上、ポータルサイト、HPで公表している。 ・授業計画(シラバス)の作成過程 <ol style="list-style-type: none"> ①全学教務委員会における次年度シラバスの記載事項・留意事項・補足事項等の確認 ②教学部長名による各教員へのシラバス作成依頼 ③各教員によるシラバスの作成 ④シラバスチェックリストによる学部・学科教務委員等による記載内容の訂正・追加等 ⑤教学課による修正 ・授業計画の作成・公表時期 <ol style="list-style-type: none"> ①前年度12月の全学教務委員会において次年度シラバスの記載事項等を確認 ②1月までに各教員へシラバスの入稿を依頼 ③3月中旬までに学部学科教務委員等によるシラバスのチェック ④3月末にシラバスを公表 	
授業計画書の公表方法	<p>http://portal.soai.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp</p> <p>◇検索方法は、以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ゲストユーザー」をクリック ②「シラバス照会」をクリック
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- ・『学びのガイドブック (履修ガイド)』に記載している「評価方法」に基づき、修学の成果を厳正かつ適正に評価している。
- ・成績は、『学びのガイドブック (履修ガイド)』に記載している「評価基準」に基づき、100点満点で60点以上が合格で、単位を付与している。

・成績評価基準

	評価点	成績通知書の表示	評価の基準
合格	100点～90点	秀	学習到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している
	89点～80点	優	学習到達度が優秀な水準で到達目標に達している
	79点～70点	良	学習到達度が良好な水準で到達目標に達している
	69点～60点	可	学習到達度が到達目標に達している
不合格	59点以下	不可	学習到達目標を達成していない
失格	—	失格	その授業科目の失格条件に該当する場合等
認定	—	認定	他大学での修得済単位の認定等

- ・本学では、平成29年度から学生への成績通知において、学生がより正確な成績把握が可能となるよう、また、成績開示の観点並びに、学生の意欲向上に資するため、5段階による「評語」に加え、評価点(素点)を記載している。
- ・同一科目を複数開講する場合、成績評価について担当教員による評価のばらつきが生じないように、担当教員間で評価方法(「評価項目」「配分率」等)の調整を行っている。
- ・成績評価方法の公表について
 1. 成績評価の方法については、シラバスで公表している。
 2. 期末試験だけによる評価ではなく、小テスト、レポート、授業への参加態度等も含めた総合評価とし、評価要素ごとに評価割合をシラバスに明示している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・本学では、GPA制度を設定し、修得単位数による量的な学習成果に加え、質的な学習成果を把握することにより、学生自らが成績状況を的確に把握し、学修意欲の向上や無理のない履修計画作りに活用している。
- ・成績表には、学期ごとのGPAと在学期間中の累積GPAを記載している。
- ・GPAは、相愛大学特別奨学生、ミツバ奨学金、学生表彰等における学生選考の基準としている。
- ・GPAを活用して、各学部・学科・学年別の成績分布表を作成し、成績分布状況を把握している。

★★★ GPAの算出方法 ★★★

$$GPA = (100 \text{ 点法による成績} - 55) \times 1/10$$

$$GPA = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得たGP})] \text{ の総和}}{\text{履修科目総単位数}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法

<https://www.soai.ac.jp/studentlife/enrollment.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

相愛大学は、建学の精神および教育の目的に基づき、次に掲げる能力を有する者に学士の学位を授与する。これらの能力の具体的基準は、各学部学科の学位授与方針に定める。

1. 専門的学芸に求められる確かな知識・技能を有する。
2. 教養に裏付けられた幅広い視野で専門的知識・技能を活用して、課題を見出し、考えを生み出し、判断し、適切に表現することができる。
3. 生涯にわたって活用できる、自律的、主体的に学修にむかう力を有する。
4. あらゆる生命を尊重し、社会に貢献しようとする態度を有する。

○音楽学部音楽学科

音楽学科では、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者などの専門家の育成、さらに音楽文化を支え発展に貢献できる能力の涵養をめざし、以下に掲げる学修成果とともに、所定の124単位を修得した学生に「学士（音楽）」の学位を授与する。

<知識・理解>

1. 音楽に関する確かで深い知識を身につけている。

<技能>

2. 社会に求められる音楽の諸活動に取り組むための技術、能力を身につけている。

<思考力・判断力・表現力>

3. 演奏・研究・発表などの学びから得た経験をもとに、社会と音楽とのかかわりを多角的に思考して、音楽的活動内容を適切に判断し、実行する力を身につけている。

<関心・意欲・態度>

4. 音楽の学びを通して、社会人として誠実な態度で協働する力を身につけている。
5. 主体的な「学び」を実践する自律性を身につけている。

○人文学部人文学科

人文学科では、人間文化に関する学びを通して現代社会に貢献できる「企画する力」「実行する力」「協調する力」「持続する力」を身につけ、以下に掲げる学修成果とともに、所定の124単位を修得した学生に、「学士（人文学）」の学位を授与する。

<知識・理解>

1. 人文学に関する確かな知識を修得している。

<汎用的技能>

2. 人文学の専門的知識をもとに、現代社会の要請に緊密に対応できる柔軟で応用力のある技術、技能を身につけている。

<思考力・判断力・表現力>

3. 人文学の学びを通して多角的な視点から熟考する思考力と、他者の発言に耳を傾け自分の意見を述べる対話力を身につけている。

<関心・意欲・態度>

4. 自分のテーマを追求し、各分野において現存する問題を発見して、それを解決する実践力を身につけている。
5. 専門的知識を体系的に積み上げ、各分野に必要な資格取得をめざすとともに、継続的な学修の重要性を理解している。

<総合的な学習経験>

6. 日本文学、歴史・サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・社会の各分野の教育カリキュラムにおける専門性として、以下のいずれかの要件を満たしていること。

(日本文学)

- ① 文学研究を通して、人間や社会への理解を深め、そこで得た知見を口頭や文章で的確に伝える表現力を身につけている。

- ② 国語科教員をめざす学生は、国語教育に関する専門知識と技能を有し、教育者に必要な豊かな人間性と高度な社会性を身につけている。

(歴史・サブカルチャー)

- ① 日本の歴史文化の特質を解明する力を身につけている。
② アニメ・マンガ・ゲーム・SFなどのサブカルチャーについて、日本文化としての可能性や現代社会における意味を多面的・全体的に分析できる力を身につけている。

(仏教文化)

- ① 僧侶をめざす学生は、現代社会に生きる僧侶としての実践力・寺院運営力・企画力の必要性を理解し、仏教学・真宗学の基礎を身につけている。
② 宗教・仏教の学びを通して、他領域と対話することのできる広い視点と人間力を身につけている。

(心理)

- ① 臨床心理学、発達臨床心理学などを学び、自己理解・他者理解を深めて対人関係スキルを向上させ、他者をサポートできる力を身につけている。
② 社会心理学、産業・組織心理学などを学び、企業・組織・社会と人間の心理や行動の関係について、考察・提言できる力を身につけている。

(国際コミュニケーション)

- ① 異文化研究を通して、広い視野と柔軟なものの見方・考え方を養い、ものごとを適切に判断するバランス感覚をもって、グローバル社会で活躍できる力を身につけている。
② 多様な文化への知識を学び、実用的な英語力を高めることで、国や地域を越えて様々な人とコミュニケーションできる力を身につけている。

(ビジネス・社会)

- ① 国際貿易、金融、企業管理等経営について学び、グローバル社会で活躍できる力を身につけている。
② 現代社会のさまざまな問題を広い視野から理解し、具体的な社会調査の方法や、客観的で多角的な視点から社会を分析できる力を身につけている。

○人間発達学部子ども発達学科

子ども発達学科では、社会に貢献できる保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭、に求められる確かな実践力を基軸とし、以下に掲げる学修成果を身につけ、所定の130単位を修得した学生に、「学士(子ども発達学)」の学位を授与する。

<知識・理解>

1. 保育職・教育職に必要な確かな知識を修得している。

<技能>

2. 社会に求められる保育、教育の諸活動に取り組むための技術、技能を身につけている。

<思考力・判断力・表現力>

3. 保育、教育現場を中心に、社会に生じるさまざまな問題について、課題を見出し、専門的知識、技能を活用し、子ども理解に基づく判断から対応を考え、適切に表現することができる。

<関心・意欲・態度>

4. 保育者、教育者等社会人としての使命感や責任感をもち、協働を通し、他者への敬愛の念をもって対人援助ができる。
5. 自己の課題を見出し、その解決に向け、自律した主体的な学習ができる。

○人間発達学部発達栄養学科

発達栄養学科では、管理栄養士、栄養士、栄養教諭の育成をめざし、以下の要件を満たして所定の130単位を修得した学生に、「学士(発達栄養学)」の学位を授与する。

<知識・技能>

1. 一人ひとりの人間の発達段階や栄養状態にあった食の総合的な支援ができる知識および技能を身につけている。

<課題解決力>

2. 対象者の栄養・食生活の課題を評価し、効果的な支援や活動を計画・実施する計画力や創造力、実行力等の課題解決力を身につけている。

<情報発信力・コミュニケーション力>

3. 対象者または協働する他職種の関係者等に対して自分の意見を相手に理解してもらえるように的確に伝える発信力や、互いに理解しあうコミュニケーション力を身につけている。

<態度>

4. 主体的に「学び」に取り組む態度を身につけている。

上記のディプロマポリシーを踏まえた授業内容となるよう、シラバス作成時の『シラバス記載についての留意事項』及び『補足事項』にディプロマポリシーとの関連を記載し、各学部の教務委員等でシラバスの確認を行っている。

また、各学年終了の翌年度早々及び、卒業時に「学修調査」を実施し、授業内容・理解度等についての分析を行うとともに、その内容を以降の授業に反映させている。

・学部学科別卒業単位数

2019年度以降 入学生

学部	学科	共通教育科目	専門科目	自由選択科目	卒業要件単位数
音楽学部	音楽学科	18	82	24	124
人文学部	人文学科	18	80	26	124
人間発達学部	子ども発達学科	18	80	32	130
	発達栄養学科	18	80	32	130

・卒業判定の手順

- ① 各学部教授会において、卒業要件（卒業単位数の修得・在籍期間・学費の納入）を満たしているかの確認を行い、卒業の可否を判定している。
- ② その後、学長は各教授会の意見を聴いて認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.soai.ac.jp/univ/match/diploma-policy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	相愛大学
設置者名	学校法人相愛学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.soai.jp/zaimu/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.soai.jp/zaimu/index.html
財産目録	https://www.soai.jp/zaimu/index.html
事業報告書	https://www.soai.jp/zaimu/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.soai.jp/zaimu/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2022(令和4)年度事業計画書 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://www.soai.jp/zaimu/index.html にて開示
中長期計画(名称:相愛大学第2次将来構想 対象年度:平成30年度～)
公表方法: https://www.soai.ac.jp/univ/match/futureplan.html にて開示

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:https://www.soai.ac.jp/univ/pdf/2020_evaluation-report.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:<https://www.soai.ac.jp/univ/daigakuhyouka.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 大学全体
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.soai.ac.jp/univ/pdf/kenkyu-mokuteki.pdf) (概要) 本学は大乗仏教特に浄土真宗の精神に基づき、宗教的情操を涵養し広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.soai.ac.jp/univ/diploma-policy.html) (概要) 相愛大学は、建学の精神および教育の目的に基づき、次に掲げる能力を有する者に学士の学位を授与する。これらの能力の具体的基準は、各学部学科の学位授与方針に定める。 1. 専門的学芸に求められる確かな知識・技能を有する。 2. 教養に裏付けられた幅広い視野で専門的知識・技能を活用して、課題を見出し、考えを生み出し、判断し、適切に表現することができる。 3. 生涯にわたって活用できる、自律的、主体的に学修にむかう力を有する。 4. あらゆる生命を尊重し、社会に貢献しようとする態度を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.soai.ac.jp/univ/curriculum-policy.html) (概要) 建学の精神および教育の目的に基づき、各学部学科がめざす養成すべき人材像を実現するために、次の方針により教育課程を編成し、実施する。その中で、初年次教育やキャリア教育を展開する。 (教育課程編成) 1. 全学共通の教育課程の科目は、その履修を通じて、本学学生としての共通した基礎的学力・教養を身につけることができるよう編成する。具体的には共通教育科目の教育課程編成・実施の方針に定める。 2. 専門教育課程の科目は、各学部学科の専門性を修得するために、学部学科独自の専門教育に関する理念と方針にそって編成する。具体的には各学部、学科の教育課程編成・実施の方針に定める。 3. 資格支援を目的に、「教職課程科目」ならびに「図書館司書課程科目、学校図書館司書教諭課程科目」を配置する。 4. 専門分野以外に、より幅広い教養を身につけることができるよう他学部、他学科の一部科目の履修を可能とする。 (授業方法) 1. 可能な限り少人数制とし、各人の習熟度に応じて学修できるようにする。 2. 学生の主体的な学びを身につけるための双方向対話型（アクティブラーニング）を重視した教育を実施する。 (学修評価) 1. 授業科目の十分な学修時間を確保し、単位制度の実質化を図る。 2. 成績評価は、シラバスに明示した授業の「到達目標」「授業計画」「評価方法」に基づき、厳格で客観的、公正な評価を行う。 ★★★ 共通教育科目に係るカリキュラム・ポリシー（大学共通） ★★★

共通教育科目には、建学の精神の具現化をめざす「基礎科目」、教養に裏付けられた幅広い視野の修得をめざす「教養科目」、自律的、主体的に学修に向かう汎用的基礎力の修得をめざす「アカデミックスキル科目」の科目群を配置する。

1. 建学の精神の具現化をめざす

基礎科目は、「建学の精神」の分野であり、本学カリキュラムの中核をなす科目である。本学の「建学の精神」の理解を深めることをめざす「當相敬愛と浄土真宗Ⅰ」、仏教の視点から現代社会のあり方や人間の生き方を考える「仏教思想と現代」、社会における相愛大学の役割を学ぶ「大学と社会」、本学の「建学の精神」に基づいた主体性のさらなる育成をめざす「當相敬愛と浄土真宗Ⅱ」の4科目から構成している。

科目の学年配置は、学びの深まりの順序を示している。「大学と社会」は、学生各自がそれぞれの学びの過程で適切な時期に履修できるよう、全学年で履修可能としている。

2. 教養に裏付けられた幅広い視野の修得をめざす

教養科目は、「人文」の分野（4科目）、「社会」の分野（4科目）、「自然」の分野（3科目）、「複合領域」の分野（11科目）から構成されている。「人文」、「社会」、「自然」の各分野の教養科目における学びを通して、教養に裏付けられた幅広い視野を修得することができ、専門科目もより深く学ぶことができるようになる。「複合領域」の分野は、多角的な視点からアプローチする科目群であり、現代的課題を探究し生涯にわたる生活に必要なリテラシーを学ぶことができる。

これらの科目は、学生の興味・関心に応じて柔軟に履修ができるよう、全学年で履修可能としている。

3. 汎用的基礎力の修得をめざす

アカデミックスキル科目は、「キャリア」の分野（2科目）、「情報」の分野（2科目）、「健康」の分野（3科目）、「語学」の分野（22科目）から構成される科目群である。アカデミックスキルの4分野の学びを通して、大学の学びに必要な自律的、主体的に学修に向かう汎用的基礎力を修得することができる。

なお、「健康」の分野のうち実技を行う科目群では、さまざまな疾患等により通常の実習を受講できない学生を対象として「健康コース」を開設している。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.soai.ac.jp/univ/admission-policy.html>）

（概要）

グローバル化、情報化という激しい波によって社会の構造は大きく変わりつつあります。競争や効率化が叫ばれる中で、人びとは自己の利害を追い求め、ともすれば他者のことに思いをいたさない風潮があります。このような社会にあつてこそ、人の痛みや悲しみに共感し、相手の喜びを共に喜び、本当の意味での相手の幸せを願うことが何よりも大切でありましょう。相愛大学は、そのような考えを建学の精神とし、これからの時代をつくる、しなやかでたくましい人材を養成しようとしています。本学は次のような学生を求めています。

1. 「當相敬愛（とうそうきょうあい）」（自分を愛するように他者を敬愛する）の精神を基盤として主体的に学ぼうとする人。
2. 人と人とのつながりの中で、自分の力を発揮しようとする人。
3. 音楽文化・音楽産業の振興に貢献しようとする人。
4. 他者の文化を理解するとともに、世界に向けて日本を発信しようとする人。
5. 多様な視点から文化を考察しようとする人。
6. 心身の発達に関わる専門家として、慈しみの心・共生の心をもって、社会に貢献しようとする人。

学部等名 音楽学部 音楽学科
教育研究上の目的 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/pdf/kenkyu-mokuteki.pdf)
(概要) 音楽学部は、高度な音楽的技術の修得にとどまらず、宗教的情操を備え、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者などの専門家を養成する。同時に、音楽を愛好する音楽文化人として文化の諸現象が社会に寄与する意義を感得し、音楽文化と産業の振興に貢献できる人材を育成することを目的とする。 音楽学科は、演奏技量・教育能力・音楽教養の3方向に広がる領域の中で、個々の学生をそれぞれの資質や希望に沿って位置づけ、音楽文化の諸相において活躍できるように育成し、その音楽人的文化力を通じて、日本の情操社会の水準向上に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/diploma-policy.html)
(概要) 音楽学科では、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者などの専門家の育成、さらに音楽文化を支え発展に貢献できる能力の涵養をめざし、以下に掲げる学修成果とともに、所定の124単位を修得した学生に「学士(音楽)」の学位を授与する。 <知識・理解> 1. 音楽に関する確かで深い知識を身につけている。 <技能> 2. 社会に求められる音楽の諸活動に取り組むための技術、能力を身につけている。 <思考力・判断力・表現力> 3. 演奏・研究・発表などの学びから得た経験をもとに、社会と音楽とのかかわりを多角的に思考して、音楽的活動内容を適切に判断し、実行する力を身につけている。 <関心・意欲・態度> 4. 音楽の学びを通して、社会人として誠実な態度で協働する力を身につけている。 5. 主体的な「学び」を実践する自律性を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/curriculum-policy.html)
(概要) 音楽学科では、全学共通の「共通教育科目」と学科の「専門科目」で教育課程を編成する。「専門科目」は、学部・学科共通の「学科基礎科目」、「学科応用科目」、「学科展開科目」および各「専攻専門科目」によりカリキュラムを編成する。「学科展開科目」は、『演奏関連科目』、『音楽教育関連科目』、『キャリア関連科目』によって構成される。 1. 音楽の基礎的な知識・力を身につける 西洋音楽の歴史、構造、様式を理解し、演奏表現の基礎(楽譜を読む力、書く力、音程やリズムを正しく表現する力)を身につけるために、初年次音楽キャリア教育科目を含めて、「学科基礎科目」に19科目を配置する。 2. 音楽を深く、多角的に学ぶ 建学の精神に基づき、真宗礼拝音楽を学びの礎とする。音楽における心理学、美学、社会学、社会的要請に応えるための音楽著作権を学ぶために、学科基礎科目を発展させた講義・演習科目、副科を含めて、「学科応用科目」に15科目を配置する。 3. 社会に必要とされる音楽の力を身につける 「学科展開科目」は、以下の科目群から編成される。 ・演奏関連科目(16科目) 演奏表現を発展させる高度なレベルのソルフェージュ、和声法、対位法、楽曲分

<p>析を学び、実技科目を通してさらなる演奏技術を修得する。また海外研修により国際的な表現力と感覚を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽教育関連科目（20 科目） 広い視野を身につけるために、日本音楽史、諸民族の音楽を学び、邦楽器、古楽器、鍵盤楽器の演奏法を身につける。そして音楽教育に必要な指揮法、伴奏法、作・編曲の力を修得する。 ・キャリア関連科目（11 科目） 音楽を通じて現代社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけ、音源編集と楽譜制作、教育環境運営のスキルを修得する。そして音楽に隣接する幅広い文化を学び、豊かな音楽キャリアを形成する。 <p>4. 専門の学び</p> <p>音楽学部の学びの中心になる専攻別の科目を、「専攻専門科目」に配置している。実技科目は個人レッスン、演習科目は少人数で専門技術と知識を学ぶ。</p> <p>作曲、音楽学、音楽療法、アートプロデュース専攻の「専攻専門科目」は、副専攻制度により指定された科目を横断的に履修できる。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/admission-policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>音楽学科は、音楽的技術の習得にとどまらず、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者などの専門家や音楽文化と産業の振興に貢献できる人材の育成をめざします。この目的を達成するため、入学者に求める力は次の通りです。</p> <p><知識></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校卒業相当の知識を有している。 2. 高等学校までの履修や個別の学習により、音楽に関する基礎的知識を有している。 <p>※ 演奏系専攻をめざす人には、基礎的演奏技術を重視する。</p> <p><関心・意欲></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者、音楽企画者などの専門家をめざす。 4. 音楽の社会的貢献に関心を持ち取り組む意欲がある。 <p><態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 個々の専攻だけでなく十分な音楽知識と音楽分野での広い視野を求めようとする態度を有している。

<p>学部等名 人文学部 人文学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/pdf/kenkyu-mokuteki.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>人文学部は、人文科学の分野において、総合的・学際的な教育研究を行い、現代社会に生じる諸問題を多面的に捉え、思想・宗教的な素養をも生かして、自ら問題に立ち向かう主体性を持った人材を育成することを目的とする。</p> <p>人文学科は、日本文学、歴史・サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・社会などの分野を軸に、文化の諸相を読み解く能力と複雑化する現代社会を生き抜く力を培い、仏教精神に基づく知情意のバランスのとれた人格を育み、他者及び異文化への理解を備えた国際社会に通用する人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/diploma-policy.html)</p>

(概要)

人文学科では、人間文化に関する学びを通して現代社会に貢献できる「企画する力」「実行する力」「協調する力」「持続する力」を身につけ、以下に掲げる学修成果とともに、所定の124単位を修得した学生に、「学士（人文学）」の学位を授与する。

<知識・理解>

1. 人文学に関する確かな知識を修得している。

<汎用的技能>

2. 人文学の専門的知識をもとに、現代社会の要請に緊密に対応できる柔軟で応用力のある技術、技能を身につけている。

<思考力・判断力・表現力>

3. 人文学の学びを通して多角的な視点から熟考する思考力と、他者の発言に耳を傾け、自分の意見を述べる対話力を身につけている。

<関心・意欲・態度>

4. 自分のテーマを追求し、各分野において現存する問題を発見して、それを解決する実践力を身につけている。
5. 専門的知識を体系的に積み上げ、各分野に必要な資格取得をめざすとともに、継続的な学修の重要性を理解している。

<総合的な学習経験>

6. 日本文学、歴史・サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・社会の各分野の教育カリキュラムにおける専門性として、以下のいずれかの要件を満たしていること。

(日本文学)

- ① 文学研究を通して、人間や社会への理解を深め、そこで得た知見を口頭や文章で的確に伝える表現力を身につけている。
- ② 国語科教員をめざす学生は、国語教育に関する専門知識と技能を有し、教育者に必要な豊かな人間性と高度な社会性を身につけている。

(歴史・サブカルチャー)

- ① 日本の歴史文化の特質を解明する力を身につけている。
- ② アニメ・マンガ・ゲーム・SFなどのサブカルチャーについて、日本文化としての可能性や現代社会における意味を多面的・全体的に分析できる力を身につけている。

(仏教文化)

- ① 僧侶をめざす学生は、現代社会に生きる僧侶としての実践力・寺院運営力・企画力の必要性を理解し、仏教学・真宗学の基礎を身につけている。
- ② 宗教・仏教の学びを通して、他領域と対話することのできる広い視点と人間力を身につけている。

(心理)

- ① 臨床心理学、発達臨床心理学などを学び、自己理解・他者理解を深めて対人関係スキルを向上させ、他者をサポートできる力を身につけている。
- ② 社会心理学、産業・組織心理学などを学び、企業・組織・社会と人間の心理や行動の関係について、考察・提言できる力を身につけている。

(国際コミュニケーション)

- ① 異文化研究を通して、広い視野と柔軟なものの見方・考え方を養い、ものごとを適切に判断するバランス感覚をもって、グローバル社会で活躍できる力を身につけている。
- ② 多様な文化への知識を学び、実用的な英語力を高めることで、国や地域を越えて様々な人とコミュニケーションできる力を身につけている。

(ビジネス・社会)

- ① 国際貿易、金融、企業管理等経営について学び、グローバル社会で活躍できる力を身につけている。

- ② 現代社会のさまざまな問題を広い視野から理解し、具体的な社会調査の方法や、客観的で多角的な視点から社会を分析できる力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/curriculum-policy.html>)

(概要)

人文学科では、全学共通の「共通教育科目」と学科の「専門科目」で教育課程を編成する。「専門科目」は、各分野の「専門関連科目」によってカリキュラムを編成する。日本文学、歴史・サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・社会の各分野の教育カリキュラムにおける専門性を身につけるために、学びの基礎となる「ゼミナール科目」「入門科目」「キャリア支援科目」を履修し、3年次より1分野を選択して学生各自の興味・関心、能力・将来に応じた教育を行う。

1. 初年次教育

大学での学びに必要なスタディスキル（学習の方法）と人文学に関する基礎的な知識を修得するために、ゼミナール科目の「基礎演習」、入門科目の「人文学概論」、キャリア支援科目の「主体的学習法」を1年次に配置し、大学教育の自主的な学びに円滑に移行できるよう教育を行う。

2. ゼミナール科目

1年次前期から4年次後期まで在学中の全学期において体系的な学びができるよう、必修科目として1年次に「基礎演習」（前後期4単位）、2年次に「専門基礎演習」（前後期4単位）、3年次に「専門応用演習」（前後期4単位）、4年次に「専門研究演習」（前期2単位）・「卒業研究」（後期2単位）の「ゼミナール科目」（計8科目）を配置し、年次進行に合わせて教育を行う。

3. 入門科目

人文学の幅広い教養を身につけ、それぞれの学生が3年次より選択する各分野の専門領域を知るための科目として、必修科目「人文学概論」（1年前期2単位）を含む、「入門科目」（計9科目）を1年次に配置して教育を行う。

4. キャリア支援科目

現代社会の一員として責任を果たすための「企画する力」「実行する力」「協調する力」「持続する力」を身につけるために、必修科目である「主体的学習法」（1年前期2単位）、「グループワーキング演習」（2年前期2単位）、「社会人基礎力形成演習」（2年後期2単位）を含む、「キャリア支援科目」（計7科目）を配置して教育を行う。

5. 学科全体の学び

現代社会の要請に緊密に対応できる、柔軟で応用力のある技術、技能を身につけるために、分野を越えた履修を奨励し、学生の興味・関心を広げるよう教育を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/admission-policy.html>)

(概要)

人文学科は、人文科学の分野において総合的・学際的な教育研究を行い、現代社会に生じる諸問題を多面的に捉え、思想・宗教的な素養も活かして、自らの問題に立ち向かう主体性をもった人材を育成することを目的としています。この目的を達成するため、入学者に求める力は次の通りです。

<知識>

1. 高等学校卒業相当の知識を有している。

<思考力・判断力・表現力>

2. 他者に心を開き、他者の思いを正確に理解し、そのうえで自らの意見を正しく表明することができる。

<関心・意欲・態度>

3. 以下に掲げる一つにあてはまる。

- ① 日本語や日本文学に深い関心と興味をもつ。
- ② 日本の歴史やアニメ・マンガ・ゲーム・SFなどのサブカルチャーに深い関心と興味をもつ。
- ③ 浄土真宗や仏教・宗教文化、伝統芸能などに深い関心と興味をもつ。
- ④ 人・自分・集団・社会や心のテーマに深い関心と興味をもつ。
- ⑤ 外国の文化・生活や英語を学び、将来の仕事に活かしたいという意欲をもつ。
- ⑥ 時事問題、経済・社会の仕組みに深い関心と興味をもつ。

学部等名 人間発達学部 子ども発達学科

教育研究上の目的

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/pdf/kenkyu-mokuteki.pdf>)

(概要)

人間発達学部は、生涯における心身の健全な発達を支援するための学術的研究と教育を行う。さらに、當相敬愛という建学の精神のもとに、これらの成果を生かし、多様な社会支援能力をもつ人材を育成し、社会への貢献を行うことを目的とする。

子ども発達学科は、慈しみのこころをもって子育てを支援し、子ども自身の育ちを大切にする教育を展開し、地域の子育てネットワークを活性化する人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/diploma-policy.html>)

(概要)

子ども発達学科では、社会に貢献できる保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭、に求められる確かな実践力を基軸とし、以下に掲げる学修成果を身につけ、所定の130単位を修得した学生に、「学士(子ども発達学)」の学位を授与する。

<知識・理解>

1. 保育職・教育職に必要な確かな知識を修得している。

<技能>

2. 社会に求められる保育、教育の諸活動に取り組むための技術、技能を身につけている。

<思考力・判断力・表現力>

3. 保育、教育現場を中心に、社会に生じるさまざまな問題について、課題を見出し、専門的知識、技能を活用し、子ども理解に基づく判断から対応を考え、適切に表現することができる。

<関心・意欲・態度>

4. 保育者、教育者等社会人としての使命感や責任感をもち、協働を通し、他者への敬愛の念をもって対人援助ができる。
5. 自己の課題を見出し、その解決に向け、自律した主体的な学習ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/curriculum-policy.html>)

(概要)

子ども発達学科では、社会に貢献できる保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭、に求められる確かな実践力を基軸とした学修成果をディプロマポリシーとしている。ここで身につけることをめざす力を「先生力」とし、その達成にむけて、全学共通の「共通教育科目」と学科の「専門科目」で教育課程を編成する。学科「専門科目」のカリキュラムの編成及び実施に関する方針を以下に示す。

1. 保育士をめざす学びを基盤とする

0～18歳を対象とした対人援助職である保育士について、資格取得をめざす学修により、子どもの発達、すなわち子どもの育ちに関する基礎的理解を修得する。

2. 保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭の養成を基軸とする
各専門職をめざす学びを体系的に積み上げることにより、乳児期から幼児期、児童期へと連続した教育及び保育に関する実践的指導力を身につける。その過程で、ますます重要度が増している幼児期教育や児童への個別的対応を可能にする指導力を身につける。
3. 1年次から4年次までを通した学外実習を体系的に積み上げる
地域の保育所、福祉施設、認定こども園、幼稚園、小学校と連携し、学内・学外実習を1年次から体験できる科目を配置する。能動的、主体的な学修の場である学内・学外実習を、その時期に求められる学修課題と連動させることで、確実な学びを可能にする。
4. 初年次教育を科目連携により実施する
種々の教育方法、学習環境で実施する1年次開講科目群の連携により、多様な背景をもつ学生を大学教育に円滑に移行させる。「ベーシックセミナー」、「子ども学基礎演習」、「保育生活技術演習」、「保育・教育マネジメントA」、「教育職の研究」、「保育・教育実践演習（学外実習）」が初年次教育科目である。
5. 社会に求められる保育者・教育者をめざすキャリア教育を4年間通して実施する
1年次から4年次まで、「先生力」を意識し獲得することをめざした科目を積み上げることにより、キャリア意識を醸成し、実践力と連動させた社会人基礎力を身につける。1年次「子ども学基礎演習」「保育・教育マネジメントA」、2年次「教職特別演習A」「保育・教育マネジメントB」、3年次「教職特別演習B」「保育・教育マネジメントC」、4年次「子ども学専門演習」「保育・教育マネジメントD」がその関連科目群である。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/admission-policy.html>)

(概要)

子ども発達学科では、社会に貢献できる保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭、に求められる確かな実践力の育成をめざします。この目標の達成に向け、入学者に求める力は次の通りです。

<知識>

1. 高等学校卒業相当の知識を有している。
※ 特に国語（古文・漢文を除く）を重視する。

<思考力・判断力・表現力>

2. 高等学校までに学んできたことがらを活用して、自分の考えを文章および口頭で明確に伝達し、他者の考えを理解し記録することができる。

<関心>

3. 保育・教育に深い関心と興味をもつ。

<意欲>

4. 子どもの成長・発達に真摯（しんし）にかかわりたいという意欲をもつ。

<態度>

5. 積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度をもつ。

学部等名 人間発達学部 発達栄養学科

教育研究上の目的

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/pdf/kenkyu-mokuteki.pdf>)

(概要)

人間発達学部は、生涯における心身の健全な発達を支援するための学術的研究と教育を行う。さらに、當相敬愛という建学の精神のもとに、これらの成果を生かし、多様な社会支援能力をもつ人材を育成し、社会への貢献を行うことを目的とする。

発達栄養学科は、共生のこころを基本とし、地域社会の活性化による生活の質的向上を支援するという目標のもとに、栄養・食生活の面から心身の健康な発達を支援できる人材

<p>の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/diploma-policy.html)</p>
<p>(概要) 発達栄養学科では、管理栄養士、栄養士、栄養教諭の育成をめざし、以下の要件を満たして所定の130単位を修得した学生に、「学士(発達栄養学)」の学位を授与する。</p> <p><知識・技能></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人ひとりの人間の発達段階や栄養状態にあった食の総合的な支援ができる知識および技能を身につけている。 <p><課題解決力></p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 対象者の栄養・食生活の課題を評価し、効果的な支援や活動を計画・実施する計画力や創造力、実行力等の課題解決力を身につけている。 <p><情報発信力・コミュニケーション力></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 対象者または協働する他職種の関係者等に対して自分の意見を相手に理解してもらえるように的確に伝える発信力や、互いに理解しあうコミュニケーション力を身につけている。 <p><態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 主体的に「学び」に取り組む態度を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 https://www.soai.ac.jp/univ/curriculum-policy.html)</p>
<p>(概要) 発達栄養学科では、全学共通の「共通教育科目」と管理栄養士養成課程を基軸とする学科の「専門科目」で教育課程を編成している。「学科専門科目」は、『専門導入科目』、『専門基幹科目』、『専門関連科目』、『専門研究科目』によって構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次教育を科目連携で実施する 『専門導入科目』は管理栄養士をめざす気持ちを育み、食育のできる管理栄養士の育成を目的として配置する。「ベーシックセミナー」では、基礎力の向上を図り、大学での学びの姿勢を身につける。「食育総論」、「産官学食育実践演習」では、多様な分野の食育について専門家から学ぶ。また、『専門関連科目』に「基礎化学」、「基礎統計学演習」を配置し、専門を学ぶための基礎力を充実させる。 2. 管理栄養士養成を基軸とする 『専門基幹科目』として管理栄養士養成のための9分野の科目群と、学外実習である臨地実習を配置する。科目群は管理栄養士に必要な基礎的な知識を修得する「専門基礎分野」と総合的な実践力を育成する「専門分野」で構成する。 3. 食に関する幅広い知識・技能、態度を身につける 『専門関連科目』には、食に関する高い専門的知識を養う「行動カウンセリング論」や「食デザイン演出」、「スポーツ栄養演習」、「学校栄養教育論」、「在宅栄養ケア演習」、日本の「食」について学ぶ「茶懐石の作法と料理」、「食文化論」等を配置する。さらに、『専門研究科目』に「管理栄養士演習」、「卒業研究」を配置し、専門分野の知識・技能、態度を深化させ修得する。 4. 4年間を通して課題解決力や情報発信力・コミュニケーション力を育成する 『専門基幹科目』の専門分野の実習科目や『専門研究科目』の「卒業研究」では、様々な領域での食の支援を体験する地域連携事業を取り入れる。また、『専門関連科目』の「商品開発入門」では修得した知識・技能を地域連携事業の食品開発プロジェクトに繋げてこれらの実践力の育成をめざす。 5. カリキュラムツリーを用いて、各分野の科目間の関係を示し、学生が学びの系統性を理解できるようにしている。
<p>入学者の受入れに関する方針</p>

(公表方法 <https://www.soai.ac.jp/univ/admission-policy.html>)

(概要)

発達栄養学科では、食に関する高度で専門的な知識を修得し、食の問題を「心」と「からだ」の両面からとらえ食育のできる管理栄養士、栄養士、栄養教諭を育成します。課題解決力や情報発信力・コミュニケーション力を身につけ、一人ひとりの人間の発達段階や栄養状態にあった食の総合的な支援ができるだけでなく、食をトータルにプロデュースするデザイン力を重視します。また、本学科は地域連携による食育推進事業や商品開発を通じた実践教育を特長とし、以下のような学生を求めています。

<知識>

1. 高等学校で履修した主要教科について、基礎的な知識を有している。
※ 基礎学力として、「化学基礎」および「生物基礎」を履修していることが望ましい。

<思考・判断・表現>

2. 目標を達成するために、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、自分の考えを説明することができる。

<関心・意欲・態度>

3. 食品や栄養に興味・関心をもち、食べることを大切にする気持ちを有する。
4. 食育の推進に興味・関心をもち、地域連携事業に積極的に参加する意欲がある。
5. 医療・福祉・介護・学校の現場に興味・関心があり、将来、管理栄養士、栄養士、栄養教諭として対象に応じた効果的な栄養教育・指導を展開し活躍したいと考えている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.soai.ac.jp/univ/information.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
音楽学部	—	12人	5人	1人	1人	0人	19人
人文学部	—	6人	9人	2人	0人	0人	17人
人間発達学部	—	10人	3人	10人	0人	6人	29人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			321人				321人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://dbsara.cloudapp.net/Trm/Search.aspx					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<ul style="list-style-type: none"> ・本学教員の教育研究活動の向上と能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、FDに関わる事項を審議する「相愛大学FD委員会」を設置している。委員会は、副学長（自己点検・評価担当）、教学部長、各学部選出教員等で構成している。 ・FD委員会が主体となって、毎年「授業評価アンケート」（前期、後期）、「教員相互の授業見学」（前期、後期）※2021年度はコロナ禍により未実施、「FD研修会」（年3回）を実施し※2021年度はコロナ禍により1回のみ実施、教員の資質の維持向上を図っている。また、FD活動に関わる情報の収集、FDに関する広報活動等も実施している。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
音楽学部	80人	66人	82.5%	380人	257人	67.6%	若干名	3人
人文学部	105人	101人	96.2%	385人	411人	106.8%	10人	1人
人間発達学部	160人	100人	62.5%	640人	484人	75.6%	若干名	3人
合計	345人	267人	77.4%	1,405人	1152人	82.0%	10人と若干名	7人
(備考)								
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽学部 ⇒ 令和4年度より入学定員100人から80人に変更 ・人文学部 ⇒ 令和4年度より入学定員90人から105人に変更 ・人文学部 ⇒ 令和4年度より編入学定員10人設置 								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
音楽学部	69人 (100%)	13人 (18.8%)	37人 (53.6%)	19人 (27.5%)
人文学部	88人 (100%)	7人 (8.0%)	48人 (54.5%)	33人 (37.5%)
人間発達学部	112人 (100%)	1人 (0.9%)	99人 (88.4%)	12人 (10.7%)
合計	269人 (100%)	21人 (7.8%)	184人 (68.4%)	64人 (23.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【音楽学部】				
進学先・・・相愛大学大学院、相愛大学音楽専攻科など				
就職先・・・中学校教諭や、音楽教室・楽器店での講師、サービス業を中心とした企業				
【人文学部】				
進学先・・・大阪大学大学院、大阪教育大学大学院など				
就職先・・・小売や卸売、販売やサービス業を中心とした企業				
【人間発達学部】				
子ども発達学科 就職先・・・保育園、幼稚園、子ども園、施設、小学校など				
発達栄養学科 就職先・・・委託給食会社、ドラッグストア、保育施設など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
音楽学部	69人 (100%)	58人 (84.1%)	4人 (5.8%)	7人 (10.1%)	0人 (%)
人文学部	94人 (100%)	57人 (60.6%)	8人 (8.5%)	29人 (30.9%)	0人 (%)
人間発達学部	133人 (100%)	109人 (82.0%)	8人 (6.0%)	16人 (12%)	0人 (%)
合計	296人 (100%)	224人 (75.7%)	20人 (6.7%)	52人 (17.6%)	0人 (%)

(備考) 入学者については2018年度入学者、(2021年度卒業者)
 転学部 (人間発達→人文) の学生は人間発達の数に含む。※1名
 転学部 (人文→人間発達) の学生は人文の数に含む。※1名

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの作成に当たっては、『シラバス記載についての留意事項』及び『補足事項』を各教員に配付し、記入内容の確認・充実に取り組んでいる。 シラバスには、授業概要・ポイント、到達目標、授業計画、授業方法、評価方法・基準、失格条件、予習・復習の準備学習などのアドバイス、目安となる学修時間など、課題へのフィードバックの方法、教科書・参考文献、ディプロマポリシーとの連携、実務経験のある教員が担当する科目等を記載している。 各教員から提出されたシラバスが、シラバス記載の留意事項、補足事項に基づいて作成されているか、当該学部学科の教務委員等で記載内容を確認の上、ポータルサイト、ホームページで公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『学びのガイドブック (履修ガイド)』に記載している「評価方法」に基づき、学修の成果を厳正かつ適正に評価している。 成績は、『学びのガイドブック (履修ガイド)』に記載している「評価の基準」に基づき、100点満点で60点以上が合格で単位を付与している。 成績評価基準 			
	評価点	成績通知書の表示	評価の基準
合格	100点～90点	秀	学習到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している
	89点～80点	優	学習到達度が優秀な水準で到達目標に達している
	79点～70点	良	学習到達度が良好な水準で到達目標に達している
	69点～60点	可	学習到達度が到達目標に達している
不合格	59点以下	不可	学習到達目標を達成していない
失格	—	失格	その授業科目の失格条件に該当する場合等
認定	—	認定	他大学での修得済単位の認定等

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
音楽学部	音楽学科	124 単位	有・無	44 単位
人文学部	人文学科	124 単位	有・無	44 単位
人間発達学部	子ども発達学科	130 単位	有・無	48 単位
	発達栄養学科	130 単位	有・無	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : https://www.soai.ac.jp/students/enrollment.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.soai.ac.jp/studentlife/campus.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
音楽学部	音楽学科 演奏コース 1年	1,200,000円	300,000円	430,000円	施設費
	音楽学科 演奏コース 2年～4年	1,200,000円	—	710,000円	施設費・維持費
	音楽学科 音楽文化 創造コース 1年	1,000,000円	300,000円	320,000円	施設費
	音楽学科 音楽文化 創造コース 2年～4年	1,000,000円	—	560,000円	施設費・維持費
人文学部	人文学科	830,000円	200,000円	215,000円	施設費
人間発達 学部	子ども発達 学科	900,000円	230,000円	250,000円	施設費
	発達栄養 学科	1,000,000円	230,000円	250,000円	施設費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 各学部学科において、GPA2.0以下、必修科目未修得、出席状況の不良者等に対して、アドバイザー、学年担任等が個人の状況に応じて履修指導を実施している。また、スチューデントプロフィール等にその内容を記録している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 全学部とも学生一人ひとりに担当教員を配置し、就職・進学等についての指導・助言をおこなっている。また、就職支援を担当する学生支援センターでも学科担当制を敷き、3年生時から進路希望の把握や個別面談を通し、学生の志望に沿った支援を教職協働で実施することや、各種の就職関連講座を開講し、就職活動に有意な情報等を提供している。さらに、履歴書添削や模擬面接練習、相談等は各学科担当者がおこなうなど、学科特有の学生気質を踏まえて、個人個人に即したきめ細かい就職支援を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健管理センターを設置し、保健室と学生相談室が連携を取りながら学生の心身の健康、保健衛生等に対応している。保健室は、医師である教員の保健管理センター長1名(兼任)、看護師1名体制で構成している。月曜日から土曜日の9時から17時30分まで開室しており、定期及びスポーツ健康診断の実施と事後フォロー、救命救急講習、応急処置等、学生の健康をサポートしている。「健康調査票」でアレルギーの有無やエピペンの所持、運動の制約など、事前に知っておくべき内容を把握できるようにしている。さらに、定期的に医師による健康相談日を設け、必要に応じて専門医を紹介している。 学生相談室はカウンセラーである相談員4名(男性1名、女性3名)が1日1人体制で、月曜日から金曜日の10時から17時まで開室し、学生が抱える様々な悩みや問題への相談業務にあっている。必要であれば学生の保護者や教職員へのコンサルテーションを行い、多方面から悩みを持つ学生を支援できるように努めている。また、学生同士の交流の機会提供や学生相談室の広報活動を目的として、全学生を対象とした「スナックブレイク活動」を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.soai.ac.jp/univ/information.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F127310107929
学校名	相愛大学
設置者名	学校法人相愛学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		183人	180人	190人
内 訳	第Ⅰ区分	110人	114人	
	第Ⅱ区分	47人	50人	
	第Ⅲ区分	26人	16人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				191人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	36人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	42人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	22人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	22人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。